

## ITI Scholar NEWS vol.4 (2022, July) ITI Section Japan



### ITI スカラー通信第 4 号をお届けします

猛暑が続く毎日ですがいかがお過ごしでしょうか。

今回の通信では留学先での状況をお伝えさせていただきます。

## 山本 麻衣子先生

### University of Belgrade (Belgrade, Serbia)

セルビアも夏の暑さを迎えており、街中では華やかな女性たちのファッションが目を惹く季節となりました。セルビア人は非常に美意識が高く、自分の好きな洋服を着ています。セルビア人は一貫してセクシーさが大切なようで、それはオペ着にも表れています。現在となっては随分見慣れましたが、セルビア女性は非常にタイトなオペ着を着ており、そして私自身が購入する際にもタイトなオペ着しか購入出来ず、携帯すら入れることが難しいオペ着に衝撃を受けたことは懐かしい思い出です。

現在お世話になっているベオグラード大学の朝は早く、朝8時から外来、手術が始まります。口腔外科の外来オペ室は4台ですが、午前中だけで15~20件程度のオペが組まれています。それゆえに自分自身も判断が以前より早くなり、手術中の対応力が身に付きつつあることは留学の賜物であると感じています。ベオグラード大学のDrの非常に迅速な技術は勿論のこと、オペを支える看護師、助手たちの動きもプロフェッショナルです。各々が自分の職務を全うしながら、臨機応変に対応するがゆえに成り立つ件数であると実感しております。

また、セルビアでは国民皆保険制度というシステムがありません。そのため、歯科治療はすべて私費となります。既に50本程度埋入させて頂きましたが、留学生で言語が拙い私自身が手術を行っても、患者さんに文句を言われることが少ないのが現状です。これは、セルビアにおいて、歯科医師と患者の関係が日本と違うことも勿論ありますが、留学生に対する治療費設定を含めたベオグラード大学独自のシステムが存在し、周りの医局員のサポートもあり、非常に治療しやすい環境が作られていることが大きいと考えています。

日本では歯科医師免許の関係や言語、患者の気質などから留学生の歯科治療はなかなか難しいところがありますが、参考とすべき点もあるような気がしてなりません。



外来オペ室での手術風景

## 井汲 玲雄先生

### CUMD, University of Geneva (Geneva, Switzerland)

ジュネーブ大学に留学中の井汲玲雄と申します。今回で2回目の投稿となります。前半ではITIスカラとして参加した学会やセミナーについて、後半ではジュネーブ大学での臨床や研究について述べたいと思います。

今年に入りさまざまな学会やセミナーに参加する機会をいただきました。まず4月イタリアのローマで開催されたITI Annual Meeting。審美領域における軟組織、硬組織のマネジメントについての講演がメインで、インプラントの審美的合併症に対する様々なリカバリー方法を学ぶことができました。

5月に米国アトランタで開催されたITI Congressでは若手の優秀発表がありました。ITIスカラとしてフロリダ大学に留学しているDr.Sajszの発表は圧巻で、同じITIスカラとして多くの刺激をもらいました。

同月ベルンで開催されたDr.BuserとDr.Belserのハンズオンセミナーにも参加いたしました。Dr.Buserのライブオペではインプラント埋入と骨移植について3症例拝見しました。そこでは、①骨移植の際は骨面の骨膜をしっかりと除去すること、②骨面にデコルチケーションを行い出血を促すこと、③コーゲンメンブレンを2重に配置し移植骨の安定性を高めることの三点が強調されていました。その際、骨移植材料としてDBBMを使用し、術野から採取した血液と混合して使われておりました。

塩田真先生の恩師でもあるDr.Belserの講演では生物学的・補綴学的合併症に関する症例が提示され、長期症例から多くのことを学びました。

6月にはボストンのハーバード大学で開催されたITI Education Weekに参加。17カ国から経験豊富な先生が集まり、各国の制度や環境、考え方が異なる中、様々なディスカッションが飛び交い、とても多くの刺激を受けました。丸尾勝一郎先生の恩師であるDr. Gallucciの講演ではフルマウスの症例における高精度のデジタル印象や即時荷重に関する新しい知見を得ることができました。

ジュネーブ大学の補綴講座では臨床や研究に携わっております。天然歯の補綴に関してはセラミックによるベニアやテーブルトップによる補綴が多く、インプラントの上部構造はチタンベースとモノリシックジルコニアを使用しております。また、フェイシャルスキャナー、CTを活用したスマイルデザインや、オーラルスキャナーによる印象採得が行われております。ジュネーブ大学はデジタル技術の活用にも力を入れていることもあり、この10ヶ月でシリコン印象を見たのはわずか数回だけです。外来では指導医の指導のもと、インプラント埋入手術や骨移植等の手術に携わっております。最近では垂直的骨造成に3次元造形によるチタンメッシュを用いたり、開窓用サージカルガイドを用いて上

顎洞底挙上術を行うなど新しい経験をすることができました。研究においては前半の6ヶ月は補綴物に関する2つのシステマティックレビューに携わり、現在はジルコニアに関する vitro の実験を行なっております。

残すところわずかとなりましたが悔いのないよう頑張って参りたいと思います。  
尚、今年9月末の EAO はジュネーブで開催されますので是非皆様もご参加ください。



ジュネーブ大学 補綴講座



Dr. Urs Belser  
(ベルン大学にて)



Dr. German O. Gallucci  
(ハーバード大学にて)

ありがとうございました。

